

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-46803

(P2010-46803A)

(43) 公開日 平成22年3月4日(2010.3.4)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 4 2 D 15/02 (2006.01)	B 4 2 D 15/02	5 O 1 E 2 C O O 5
B 6 5 D 27/00 (2006.01)	B 6 5 D 27/00	J
	B 6 5 D 27/00	L

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号	特願2008-210299 (P2008-210299)	(71) 出願人	000002897
(22) 出願日	平成20年8月19日 (2008.8.19)		大日本印刷株式会社
			東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号
		(74) 代理人	100111659
			弁理士 金山 聡
		(74) 代理人	100135954
			弁理士 深町 圭子
		(74) 代理人	100119057
			弁理士 伊藤 英生
		(74) 代理人	100122529
			弁理士 藤枿 裕実
		(74) 代理人	100131369
			弁理士 後藤 直樹

最終頁に続く

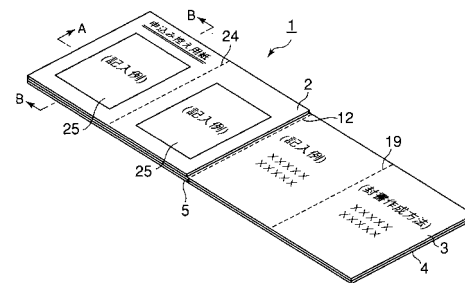
(54) 【発明の名称】 控え用紙付き封書作成用紙

(57) 【要約】

【課題】 使用者が記入する際の間違いを防止したり、封書作成の際に糊付けの必要がなく、記入情報が外部から認識できない状態にして封書の作成を行なえるようにした控え用紙付き封書作成用紙を提供する。

【解決手段】 3枚のシート状基材が重ね合わされ、上から2枚目の第2シート状基材と3枚目の第3シート基材とが接着一体化され、第3シート基材の粘着剤塗布領域の粘着剤上に、第2シート基材の剥離剤塗布領域の剥離剤が重ね合わされて、剥離可能に貼り付けられた状態を有し、更に、第2シート基材に、前記剥離剤塗布領域が設けられた部分と、それ以外の部分と、の間に切り込み線が形成され、第2シート基材の剥離剤塗布領域を有する部分だけを分離可能とし、第2シート状基材及び第3シート基材の横幅寸法は、第1シート状基材の横幅寸法よりも長い寸法で形成され、更に第1シート状基材の右端辺と重なる部分に切り取りミシンが形成されている。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも矩形状を有する 3 枚のシート状基材が重ね合わされ、最上位の第 1 シート状基材が、表面に記入欄を有する申込み控え用紙であり、上から 2 枚目の第 2 シート状基材と 3 枚目の第 3 シート基材とが接着一体化されて封書を作成するための封書作成用紙である控え用紙付き封書作成用紙であって、

前記第 3 シート基材には、左右方向の中央に縦方向の切り取り用ミシン目が形成されて、該切り取り用ミシン目から左側基材部が封書用シートとなり、該封書用シートの上下左右の各々の端辺に沿って縦横方向に切り取り用ミシン目がそれぞれ形成され、

前記第 3 シート基材の前記左側基材上において、前記各切り取り用ミシン目が形成された部分と、各端辺との間の領域に粘着剤が塗布された粘着剤塗布領域を有し、また前記第 3 シート基材の粘着剤塗布領域以外の全面領域に接着剤が塗布された接着剤塗布領域を有し、

前記第 2 シート状基材には、左右方向の中央に縦方向の切り取り用ミシン目が形成され、該切り取り用ミシン目から左側基材部が封書用シートとなり、前記第 3 シート基材に形成された切り取り用ミシン目と重なる部分に切り取り用ミシン目が形成され、

前記第 2 シート基材の前記左側基材部の裏面には、前記第 3 シート基材の粘着剤塗布領域と重なる領域に、剥離剤が塗布された剥離剤塗布領域を有し、前記第 3 シート基材の粘着剤塗布領域の粘着剤上に、前記第 2 シート基材の剥離剤塗布領域の剥離剤が重ね合わされて、剥離可能に貼り付けられた状態を有し、更に、前記第 2 シート基材に、前記剥離剤塗布領域が設けられた部分と、それ以外の部分と、の間に切り込み線が形成されて、前記第 2 シート基材の剥離剤塗布領域を有する部分だけを分離可能とし、前記第 2 シート基材の上面であって、裏面側に前記剥離剤塗布領域位置する領域と重なる領域に接着剤が塗布された領域に接着剤塗布領域を有し、

前記第 1 シート状基材の裏面と、前記第 2 シート基材の上面に設けられた接着剤塗布領域の接着剤とが接着され、

前記第 2 シート状基材及び前記第 3 シート基材の横幅寸法は、前記第 1 シート状基材の横幅寸法よりも長い寸法で形成され、更に第 1 シート状基材の右端辺と重なる部分に切り取りミシンが形成されていることを特徴とする控え用紙付き封書作成用紙。

【請求項 2】

前記第 2 シート状基材の表面であって、前記第 1 シート状基材が重ねられていない領域に、記入例又は封書作成方法が記載されていることを特徴とする請求項 1 記載の控え用紙付き封書作成用紙。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、口座振替の申込みを郵送で行なう際などに使用するための、控え用紙と、葉書作成用紙とを一体化させた構成を有する控え用紙付き封書作成用紙に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、口座振替の申込みを郵送で行なうには、口座振替申込葉書シートを用いるという方法があった。

この口座振替申込葉書シートは、裏面に宛名情報記入部が設けられ、また表面に口座振替に必要な事項を記入するための事項記入欄が設けられた葉書紙片と、更に、表面に、この葉書紙片の事項記入欄に必要事項を記入する際の記入要領が記載され、該表面を葉書紙片の表面に折り合わせて事項記入欄を隠蔽する隠蔽紙片とを折り部を境に接続されてなり、前記隠蔽紙片の重ね合わせ面の全体に剥離後再接着可能な接着剤を設ける一方、前記接着剤を保護するための剥離紙で形成した保護片が設けられてなる構成を有している。

【0003】

そして、口座振替申込葉書シートから口座振替申込葉書を作成するには、隠蔽紙片の表面に記載されている記入要領を参考にしながら、葉書紙片の事項記入欄に申込者の隠蔽すべき個人情報を記入した後、隠蔽紙片の保護片を剥離し、葉書紙片の表面と、隠蔽紙片の表面と、を折り部から折り重ね合わせ、接着剤で三辺を剥離不能に接着していた。

【0004】

上記従来の方法では、二枚の紙片を剥離可能に接着した葉書を用いて口座振替申込を行なうので、二紙片を剥離すれば申込の内容を第三者が視認可能であって、親展性に欠けるという問題があった。

【0005】

また、他の方法として、二枚の紙片を2つに折り畳んで接着して封書を作成して口座振替申込を行なうことも知られている。（例えば、特許文献1参照）

しかしながら、2つに折り畳んだ紙片を透かして内部に記載された内容を盗み見られるという危険性もあり、この場合も親展性に欠けるという問題があった。

【0006】

また、例えば、申込書を封書化させて郵送する場合には、図8に示すように、申込者側が不要部分の切り取りを行い、所定部分に糊付けを行なった後に巻き折りすることで、封書を作成することができるように構成された巻き折り加工用紙30などが知られている。

このような封書作成用紙を有する巻き折り用紙については、既に種々の仕様のものが知られている。（例えば、特許文献2～4参照）

【0007】

【特許文献1】特開平11-105467号公報

【特許文献2】特開2002-54323号公報

【特許文献3】特開2003-200680号公報

【特許文献4】特開2003-432715号公報

【特許文献5】特開2006-44080号公報

【0008】

しかしながら、従来の封書作成用紙を有する用紙は、封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行わなければならないので不便であるという問題がある。

また、顧客が、封書作成用紙片に個人情報を直接記入した場合には、筆圧により用紙に凹凸が形成されたり、筆跡が封書の外側から透かして見えたりして、記入事項が認識しやすく、個人情報が漏洩する危険性が高いという問題がある。

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0009】

そこで、本発明は、封書作成用紙から封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行なう必要がなく、また、封書作成用紙で作成された封書に記入された個人情報が、外部から認識できない状態にして親展性を有し、更に、封書作成用紙から封書を作成する際に、余分なゴミがでないようにして封書を作成することができ、また、その使用者の記入間違いを防止したり、封書の作成を行なえるようにした控え用紙付き封書作成用紙を提供する。

【課題を解決するための手段】

【0010】

本発明の控え用紙付き封書作成用紙は、少なくとも矩形状を有する3枚のシート状基材が重ね合わされ、最上位の第1シート状基材が、表面に記入欄を有する申込み控え用紙であり、上から2枚目の第2シート状基材と3枚目の第3シート基材とが接着一体化されて封書を作成するための封書作成用紙である控え用紙付き封書作成用紙であって、前記第3シート基材には、左右方向の中央に縦方向の切り取り用ミシン目が形成されて、該切り取り用ミシン目から左側基材部が封書用シートとなり、該封書用シートの上下左右の各々の端辺に沿って縦横方向に切り取り用ミシン目がそれぞれ形成され、前記第3シート基材の前記左側基材上において、前記各切り取り用ミシン目が形成された部分と、各端辺との間

10

20

30

40

50

の領域に粘着剤が塗布された粘着剤塗布領域を有し、また前記第3シート基材の粘着剤塗布領域以外の全面領域に接着剤が塗布された接着剤塗布領域を有し、前記第2シート状基材には、左右方向の中央に縦方向の切り取り用ミシン目が形成され、該切り取り用ミシン目から左側基材部が封書用シートとなり、前記第3シート基材に形成された切り取り用ミシン目と重なる部分に切り取り用ミシン目が形成され、前記第2シート基材の前記左側基材部の裏面には、前記第3シート基材の粘着剤塗布領域と重なる領域に、剥離剤が塗布された剥離剤塗布領域を有し、前記第3シート基材の粘着剤塗布領域の粘着剤上に、前記第2シート基材の剥離剤塗布領域の剥離剤が重ね合わされて、剥離可能に貼り付けられた状態を有し、更に、前記第2シート基材に、前記剥離剤塗布領域が設けられた部分と、それ以外の部分と、の間に切り込み線が形成されて、前記第2シート基材の剥離剤塗布領域を有する部分だけを分離可能とし、前記第2シート基材の上面であって、裏面側に前記剥離剤塗布領域位置する領域と重なる領域に接着剤が塗布された領域に接着剤塗布領域を有し、前記第1シート状基材の裏面と、前記第2シート基材の上面に設けられた接着剤塗布領域の接着剤とが接着され、前記第2シート状基材及び前記第3シート基材の横幅寸法は、前記第1シート状基材の横幅寸法よりも長い寸法で形成され、更に第1シート状基材の右端辺と重なる部分に切り取りミシンが形成されていることを特徴とする。

10

【0011】

また、本発明の控え用紙付き封書作成用紙は、前記第2シート状基材の表面であって、前記第1シート状基材が重ねられていない領域に、記入例又は封書作成方法が記載されていることを特徴とする。

20

【発明の効果】

【0012】

したがって、本発明の控え用紙付き封書作成用紙は、予め密封するための粘着剤がシート基材の所定部分に塗布されているので、封書作成用紙から封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行なう必要がなく、また、封書を構成するシート基材が2枚重ね合わされた構成を有しているので、封書作成用紙で作成された封書に記入された個人情報が、外部から認識できない状態とすることで親展性を有し、更に、最上位の第1シート状基材を剥がす際に、第2シート基材の所定部分が第1シート状基材に貼付されたまま剥離されるので、封書作成用紙から封書を作成する際に、余分なゴミがでないようにすることができるという効果がある。

30

【0013】

また、本発明の控え用紙付き封書作成用紙は、第2シート状基材及び第3シート基材の横幅寸法が、第1シート状基材の横幅寸法よりも長い寸法で形成され、第1シート状基材が重ねられていない領域に、記入例又は封書作成方法が記載されているので、使用者が間違いなく記入し、封書の作成を行なえるという効果がある。

【発明を実施するための最良の形態】

【0014】

以下、本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙を図面に基づいて詳細に説明する。

40

図1には、本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙の斜視図が示され、図2には、図1のA-A線断面図が示され、図3には、図1のB-B線断面図が示され、図4には、本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙を構成する各用紙を分離させた状態の平面図が示されている。

図1乃至図4に示すように、本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙1は、少なくとも矩形状を有する3枚のシート状基材が重ね合わされており、その最上位の第1シート状基材2が、表面に記入欄を有する申込み控え用紙であり、上から2枚目の第2シート状基材3と3枚目の第3シート基材4とが接着一体化された状態となっており、第2シート状基材3及び第3シート基材4の一部を2つに折り畳んで封書を作成できるように構成されている。

【0015】

50

次に、控え用紙付き封書作成用紙 1 を構成する各シート状基材について説明する。

最初に、図 4 に基づいて最下位の第 3 シート基材 4 から説明する。

最下位の第 3 シート基材 4 には、左右方向の中央部分に縦方向の切り取り用ミシン目 5 が形成され、該切り取り用ミシン目 5 により左側基材部 4 a と右側基材部 4 b とに分けられて、左側基材部 4 a が封書用シートとなる。

第 3 シート基材 4 の左側基材部 4 a と右側基材部 4 b とには、それぞれ左右方向の中央部分に縦方向の折り畳み用ミシン目 10, 11 が形成されている。

【0016】

更に、第 3 シート基材 4 の切り取り用ミシン目 5 から左側基材部が封書用シートの上下左右の各々の端辺に沿って、縦横方向に切り取り用ミシン目 6, 7, 8, 9 がそれぞれ形成されている。

また、第 3 シート基材 4 の左側基材部 4 a の上面において、各々の端辺に沿って、縦横方向に形成された各切り取り用ミシン目 6, 7, 8 が形成された部分と、各端辺との間の領域に粘着剤 14 が塗布された粘着剤塗布領域を有する。

また、第 3 シート基材 4 の粘着剤 14 が塗布された粘着剤塗布領域以外の全面領域に接着剤 13 が塗布された接着剤塗布領域を有する。

【0017】

また、第 2 シート状基材 2 には、左右方向の中央に縦方向の切り取り用ミシン目 12 が形成され、該切り取り用ミシン目 12 から左側基材部 4 a が封書用シートとなる。

そして、第 2 シート状基材 2 には、第 3 シート基材 4 に形成された各々の切り取り用ミシン目 6, 7, 8, 9 と重なる部分に、各々の切り取り用ミシン目 15, 16, 17 が形成されている。

また、第 2 シート状基材 2 には、第 3 シート基材 4 に形成された各々の折り畳み用ミシン目 10, 11 と重なる部分に、各々の折り畳み用ミシン目 18, 19 が形成されている。

【0018】

第 2 シート基材 2 の左側基材部 4 a の裏面には、前記第 3 シート基材の粘着剤塗布領域と重なる領域に、剥離剤 21 が塗布された剥離剤塗布領域を有し、前記第 3 シート基材 4 の粘着剤 14 が塗布された粘着剤塗布領域の粘着剤上に、前記第 2 シート基材 2 の剥離剤 21 が塗布された剥離剤塗布領域の剥離剤が重ね合わされて、剥離可能に貼り付けられている。

更に、前記第 2 シート基材 2 には、前記剥離剤 21 が塗布された剥離剤塗布領域が設けられた部分と、それ以外の部分と、の間に切り込み線 22 が形成されている。

この切り込み線 22 により、前記第 2 シート基材 2 の剥離剤 21 が塗布された剥離剤塗布領域を有する部分だけを分離可能としている。

また、前記第 2 シート基材 2 の上面であって、裏面側に前記剥離剤塗布領域位置する領域と重なる領域に、接着剤 23 が塗布された接着剤塗布領域を有している。

そして、前記第 1 シート状基材の裏面と、前記第 2 シート基材 2 の上面に設けられた接着剤 23 が塗布された接着剤塗布領域の接着剤とが接着されている。

【0019】

次に、最上位の第 1 シート状基材 2 は、前記第 2 シート状基材 3 及び前記第 3 シート基材 4 の横幅寸法よりも身近な寸法で形成されており、前記第 1 シート状基材 2 の左右方向の中央部分に、縦方向の折り畳み用ミシン目 24 が形成されている。

また、第 1 シート状基材 2 の表面には、所望の領域に記入部 25 が設けられている。

第 1 シート状基材 2 の裏面と、第 2 シート基材 3 の表面とは、例えば、発色剤及び顕色剤を用いたノーカーボン複写方式やカーボン複写方式などにより複写可能に構成されており、第 1 シート状基材 2 の表面の記入部 25 に記入した内容が、第 2 シート基材 3 の表面の複写記入部 26 に複写されて記入できるように構成されている。

【0020】

また、第 2 シート状基材 3 の左右方向の中央に形成された縦方向の切り取り用ミシン目

10

20

30

40

50

1 2 から右側基材部 4 b の表面には、控え用紙付き封書作成用紙 1 の使用者に対しての説明情報として、記入例や封書作成方法などが記載されており、使用者は、これらの記載内容を参考にしながら必要事項を記入し、封書の作成を行なえるようになっている。

【0021】

次に、控え用紙付き封書作成用紙 1 の使用方法を説明する。

まず、控え用紙付き封書作成用紙 1 の使用者は、図 1 に示すように、第 1 シート状基材 2 の記入部 2 5 に必要事項を記入する。

そして、記入部 2 5 に記入された内容は、第 2 シート基材 3 の表面の複写記入部 2 6 に複写される。

次に、図 5 に示すように、第 2 シート状基材 3 及び第 3 シート基材 4 を、左右方向の中央部分に縦方向の切り取り用ミシン目 5, 1 2 から切り取る。

【0022】

次に、必要事項を記入した使用者は、申込み控え用紙である第 1 シート状基材 2 の右側端部あたりを持って、捲り上げをことで、図 5 に示すように、第 2 シート基材 3 及び第 3 シート基材 4 から第 1 シート状基材 2 を分離させる。

この際に、第 2 シート基材 3 に形成された切り込線 2 2 で区画される外側の部分の表面が、接着剤 2 3 により第 1 シート状基材 2 の裏面側で接着状態となっていることから、その部分が第 1 シート状基材 2 に付着されたまま剥離される。

これにより、図 5 に示すように、第 2 シート基材 3 に形成された切り込線 2 2 で区画される外側の部分だけが剥離されることで、第 3 シート基材 4 の表面に設けられた粘着剤塗布領域の粘着剤 1 4 が表出された状態となる。

【0023】

次に、図 6 に示すように、重ね合わされた状態の第 2 シート基材 3 及び第 3 シート基材 4 を、折り畳み用ミシン目 1 0, 1 8 の部分から 2 つに折り畳んだ後に、第 3 シート基材 4 の粘着剤塗布領域に塗布された粘着剤 1 4 により、三辺周縁部を接着させることで密封された封書を作成する。

そして、その封書を郵便ポストに投函するなどして郵送する。

【0024】

次に、その封書の受取人は、図 7 に示すように、切り取り用ミシン目 6, 7, 9 から切り取ることで、接着された三辺周縁部を分離させて開封させ、複写記入部 2 6 に表示された内容を見ることができる。

【0025】

上記のように、本発明の控え用紙付き封書作成用紙は、封書作成用紙から封書を作成する際に、糊代部分に顧客が自分で糊付けを行なう必要がなく、また、封書作成用紙で作成された封書に記入された個人情報、外部から認識できない状態にして親展性を有し、更に、封書作成用紙から封書を作成する際に、余分なゴミがでないようにして封書を作成することができるように構成されている。

【図面の簡単な説明】

【0026】

【図 1】本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙の斜視図である。

【図 2】図 1 の A-A 線断面図である。

【図 3】図 1 の B-B 線断面図である。

【図 4】本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙を構成する各用紙を分離させた状態を示す平面図である。

【図 5】本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙の使用方法を説明するための斜視図である。

【図 6】本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙で作成された封書の斜視図である。

【図 7】本発明の実施形態に係る控え用紙付き封書作成用紙で作成された封書を開封させた状態を示す斜視図である。

10

20

30

40

50

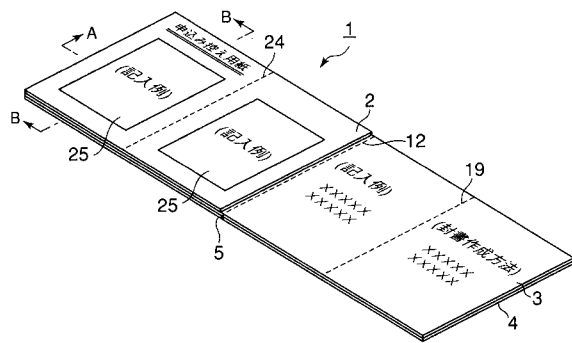
【符号の説明】

【0027】

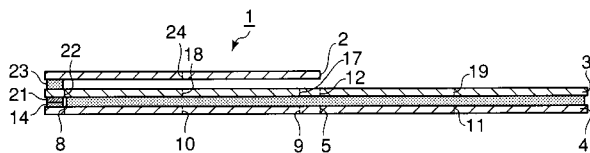
- 1 控え用紙付き封書作成用紙
- 2 第1のシート状基材
- 3 第2のシート状基材
- 4 第3のシート状基材
- 5, 6, 7, 8, 9, 12, 13, 15, 16, 17 切り取り用ミシン目
- 10, 11, 18, 19, 24 折り畳み用ミシン目
- 13, 23 接着剤
- 14 粘着剤
- 21 剥離剤
- 22 切り込線
- 25 記入部
- 26 複写記入部
- 30 巻き折り加工用紙

10

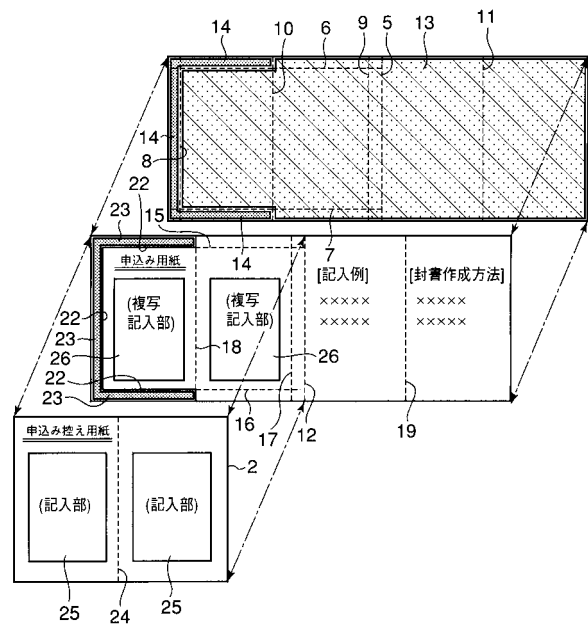
【図1】



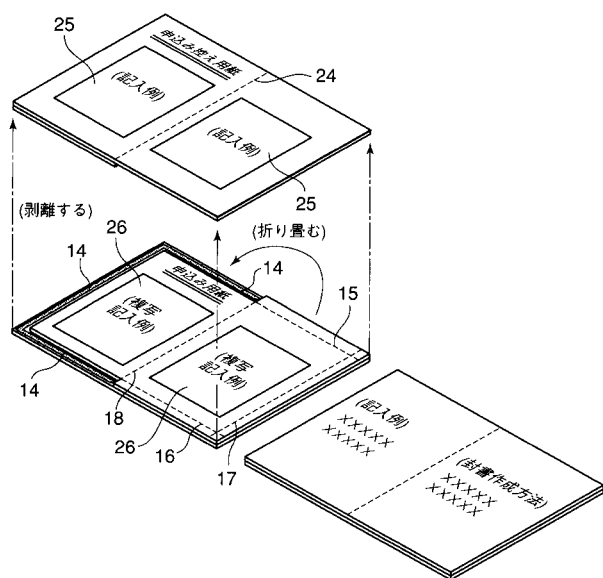
【図2】



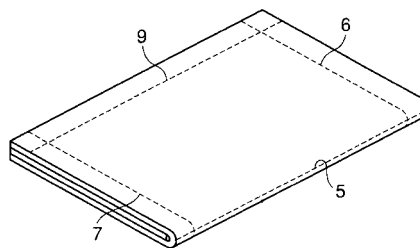
【図3】



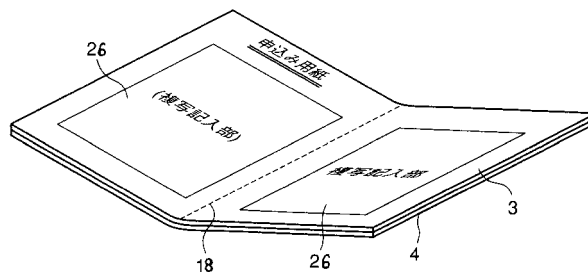
【図 4】



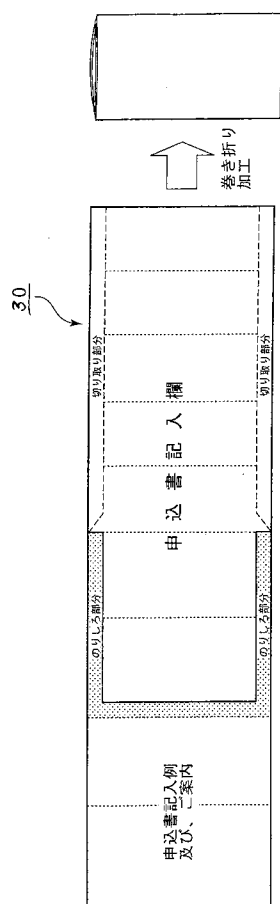
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

(72)発明者 佐藤 潤

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号 大日本印刷株式会社内

Fターム(参考) 2C005 WA11